

性格類型と正常体質分類について の調査報告

市 川 民 慈 子

I 緒 言

述者は神戸女学院大学第二学年の全員に体育講義を担当しているが、その教室から受ける雰囲気は学期毎に異なり或る学期は反応を示す事が甚だ強く、質疑応答に対して必要以上に関心を示し、個人の解答中にも隣席から賑かに補足し、時に爆笑し実習等をはじめると行動に移す事も比較的機敏で全体として陽気、活動的、更に騒々しい傾向に至る。これに反して或る学期は静粛、慎重で口答質問に対して敏速に意志表示をせず、指名しても何処に在席するかも不明な沈黙を守り、しかし筆答形式に変えると緻密で、かなり鋭い意見も述べ、学習も行っている様子である。かかる現象はまさに登録学生の持つ性格傾向のかもしれない。

性格類型に関しては C.G. Jung の学説に賛成すると否に拘らず、その分類法が広く採用されている。即ち彼は Freud の精神分析学に立脚して、人間に二つの反応様式を見出し、この二つの性格類型に外向性、内向性の名を与えた。⁽¹⁾ それらの性格特徴に関しては多くの文献が述べている如くである。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾

次に「体質」という日本語は字面からみて身体的の事ばかりを考えている様に受取られるおそれがあるが、原語の Constitution, Konstitution は個人のもっている本質的なもの全体をさし、精神を無視して身体の事ばかり言っているのではない。⁽⁶⁾ のみならず精神作用は身体を離れて存在するものではなく脳細胞の一面の現われであるから性格は体質の概念の中に入れて考えるべきである。

述者は1958年度前期体育講義登録学生118名について、それらの向性を知り更に性格類型と正常体質分類との関係に興味をいだき、最近の調査成績の結果を報告する次第である。

Ⅱ 調 査 方 法

(1) 調 査 人 員 の 構 成

1958年度前期の体育講義登録学生 118名に 関する 7 月 1 日現在の年齢区分は次の如くである。

第1表 神戸女学院大学生118名の調査人員構成

満 年 令 (才)	人 員 (名)
25	1
21	3
20	22
19	92
合 計	118

(2) 性 格 類 型 検 査

Jung の学説⁽⁷⁾から出発した淡路氏の向性検査の基本型に従がい、言葉の表現を多少改良した方法⁽⁸⁾により50項目の質問内容を印刷した用紙を被検者に渡し、他人に相談する事なく自分で自分について判断し、「はい」又は「いいえ」に○印をつけて回答させる。いずれとも定められない項目については答えなくてもよい。

採点法は50項目のうち2、4、5、8、10、11、12、18、20、21、24、25、26、28、29、34、36、37、38、40、41、46、48、49、50の25項目は外向性の徴候に関するものであるから、これに「はい」と答えれば1点を与え、その他の項目は内向性の徴候を示すものであるから、これに「いいえ」と答えれば1点を与えるようにしてその総計を外向点とする。別に回答をしなかった項目の数を数えて無応答数とする。外向点と無応答数とから次の式により向性指数を算出する。

$$\text{向性指数(VQ)} = \frac{\text{外向点} + \frac{1}{2}\text{無応答数}}{25} \times 100$$

したがって向性指数は0から200点迄の範囲にわたり、100よりも大なる値を示すものは外向性、100以下のものは内向性であるとする。尚100を示すものを

両向性とする。

50項目の質問内容に関しては紙面の関係上転載を省略するが、文献に全く忠実に従うことを附記する。

更に被検者に自己品評即ち外向傾向、内向傾向、其の他等を記載させる。

(3) 体 質 分 類 検 査

種々異つた各個人の体質（体型）を或る一定の規順に従い分類しようとする試みは、古くから多数の学者により企てられた。しかし正確に分類したり又この分類に凡ての個体を的確に当嵌めようとする試みは無理がある故に必ず中間型又は移行内至は混合型が存在する。尚代表的な分類法は Sigaud氏 分類法、Kretschmer 氏分類法、Weidenreich 氏分類法、其の他であるが、今回は⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾ Sigaud氏法を採用する。即ち呼吸器型、筋肉型、消化器型、頭脳型にわけらる。

以上に従い文献記載実態に忠実に主観的、客観的立場から自己分析を試みる。個別に詳細一覧表を作成したが省略する。

Ⅲ 調 査 成 績

(1) 性 格 類 型

118名の検査成績は次表の如くである。

第2表 神戸女学院大学生118名に関する向性指数の実態

向性指数	人員	向性指数	人員	向性指数	人員	向性指数	人員	向性指数	人員
44	1	76	4	96	2	116	4	136	2
50	1	78	1	98	7	118	1	138	2
62	4	80	4	100	6	120	5	140	2
64	1	82	2	102	1	122	1	142	1
66	1	84	4	104	5	124	4	146	1
68	1	86	3	106	1	126	3	148	1
70	2	90	1	108	10	128	4	152	1
72	2	92	2	112	9	132	3	156	1
74	1	94	1	114	2	134	2	160	1
合 計									118

向性指数の最低は44、最高は160、人員分布の最も多いのは108の10名、次で112の9名、89の7名、100の6名等の順位にある。

内向性に属する45名は全人員の38.1%にあたり、最低指数は44、最高指数は98、尚45名の算術平均は80.1を示し、人員分布の最も多いのは98の7名である。

向性指数100を示すもの6名は両向性に属すると考えられ全人員の5.1%にあたる。

外向性を示すものは67名で全人員の56.8%にあたり、最低指数は102の1名、最高指数は160の1名、人員分布の最も多いのは指数108の10名、次で112の9名、104と120の各々5名等の順である。尚67名の算術平均は121.3である。

向性指数90内至110を略々正常に近いものとみなせば、118名の^の中36名、30.5%が之に属する。

尚118名の総平均指数は104.5で、全体として軽度の外向性に傾き、述者の日頃感受する教室の雰囲気とはほぼ一致する。

この検査によつて個々の学生の性格類型を診断することは、或る程度可能であり、大多数のものは向性指数50内至150の範囲にあると文献は述べている。しかし内向型、外向型の別なく、何れにしても極端なのは危険であると信じる。事実、数種類の測定実習や宿題報告書等を施行しても、不備の傾向が強く、注意力やや散漫、熟考力も多少不足し、再三注意を喚起し助言の必要性を見出している。

以上の向性が先天的素質であるか、後天的発達であるかに関しては議論があるが、多少先天的であるにしても、幼時よりの生活環境、教育方針によつて大いに影響されるものであることは認めなければならない。

次に118名の向性検査の成績と自己品評の関係についての実態は下の表の如くである。

第3表 118名の向性検査成績と自己品評との関係についての実態

検査成績 自己品評	外向性	内向性	両向性	人 員
外向性	45	7	0	52

内 向 性		12	37	2	51
其 の 他	両 向 性	3	2	1	6
	どちらとも自分で はきめられない	3	0	2	5
	内向性でも外向性 でもない	3	0	1	4
					118

向性検査の結果成績と自己品評との一致せるものは外向性の45名、内向性の37名、両向性の1名で、これらは全人員の70.3%にあたる。尚検査の結果と自己品評の一致しないものの実態は次表の如くである。

第4表 向性検査の成績と自己品評との一致しなかったものの実態

検査成績	自 己 品 評	人員	検査成績	自 己 品 評	人員
内 向 性	外 向 性	7	外 向 性	どちらとも自分で はきめられない	3
外 向 性	内 向 性	12	両 向 性	どちらとも自分で はきめられない	2
両 向 性	内 向 性	2	外 向 性	内向性でも外向性 でもない	3
内 向 性	両 向 性	2	両 向 性	内向性でも外向性 でもない	1
外 向 性	両 向 性	3	合 計		35

以上の如く検査の結果と自己品評の一致しなかつたものは35名で、全人員の29.7%にあたる。淡路氏は自己品評の方は概して内向視に傾きやすいと述べている。事実、上表の実態も淡路説を証明しているし、又検査の結果が両向性で、自己品評の外向性というものはみられない。

上表中、自己品評に「内向性でも外向性でもない」とある項は、かならずしも両向性を意味するとは決定しがたいので別項目に分類する。

(2) 正常体質分類

Sigaud の正常体質分類法に従がうと118名の实態は次表の如くである。

第5表 118名の正常体質分類に関する実態

向性分類 体質分類		内向性	外向性	両向性	人 員	%
呼 吸 器 型		11	22	3	36	30.51
筋 肉 型		4	2	0	6	5.08
消 化 器 型		5	7	1	13	11.02
頭 脳 型		0	0	1	1	0.85
混 合 型	呼 吸—筋 肉 型	6	9	0	15	50.85
	呼 吸—消 化 型	5	4	0	9	
	呼 吸—脳 型	7	9	1	17	
	筋 肉—消 化 型	3	7	0	10	
	筋 肉—脳 型	2	1	0	3	
	消 化—脳 型	0	2	0	2	
	呼 吸—消 化—脳 型	2	0	0	2	
	筋 肉—消 化—脳 型	0	2	0	2	
無 記 載		1	1	0	2	1.69
人 員		46	66	6	118	100.00

118名中、呼吸器型は36名の30.51%、筋肉型は6名の5.08%、消化器型は13名の11.02%、頭脳型は1名の0.85%、混合型は約半数を占め、60名の50.85%、無記載2名の1.69%が含まれる。比較的純粋な体質分類では呼吸器型が最も分布率が高いといふ Bauer氏の調査成績に一致する。⁽¹⁰⁾混合型についても同様のことがみられ、呼吸器型を含むもの43名の36.43%、尚筋肉型を含むもの30名、消化器型を含むもの25名、頭脳型を含むもの26名の如くである。更に体質と性向型との関連は上表の示す如くであり、呼吸器型にて内向性を示すもの11名、外向性を示すもの22名、両向性3名である。筋肉型は内向性4名、外向性2名、消化器型は内向性5名、外向性7名、両向性1名。頭脳型は両向性の1名がみられ

る。又混合型に属するものは内向性の25名、外向性の34名、両向性の1名がみられる。尚今回の調査によれば性格類型と体質分類との関連に於ては特定の処見はみられない。

Ⅲ 結 論

神戸女学院大学生第二学年の118名に関する性格類型と正常体質分類についての結論は次の如くである。

1. 向性指数の最低は44、最高は160、人員分布の最も多いのは108の10名、全員の総平均指数は104.5である。
2. 内向性に属するものは45名で全員の38.1%にあたり、その平均指数は80.1である。
3. 両向性を示すものは6名で全員の5.1%にすぎない。
4. 外向性に属するものは67名で全人員の56.8%にあたり、その平均指数は121.3である。
5. 向性指数の略々正常とみなされるものは36名で全員の30.5%である。
6. 向性検査成績と自己品評との一致せるものは、外向性の45名、内向性の37名、両向性の1名で、全人員の70.3%にあたる。
7. 正常体質分類に従がうと呼吸器型は36名の30.51%、筋肉型は6名の5.08%、消化器型は13名の11.02%、頭脳型は1名の0.85%、その他混合型は60名の50.85%である。無記載2名の1.69%が含まれる。
8. 呼吸器型を含む体質の分布率が最も高いという文献の意見に一致する。
9. 体質分類と向性指数との間には規則的な特定関係はみられない。

V 文 献

1. C. G. Jung
Psychologische Typen. (1924)
2. 黒田 亮
心理学概論 頁441~442 (1935)

3. 今田 恵
心 理 学 頁706 (1939)
4. 戸川行男、本明 寛
心 理 学 要 説 頁199~200 (1953)
5. 松井三雄
体 育 心 理 学 頁219~221 (1955)
6. 東京大学体育研究室編
体 育 概 論 頁101 (1952)
7. 淡路圓治郎、岡部弥太郎
心 理 学 研 究 第8卷No.3. 頁65~85 (1933)
8. 松井三雄、水野忠文、江橋慎四郎
体 育 測 定 法 頁189~190 (1957)
9. クレッチマー著、正木 正訳
医 学 心 理 学 頁219~230 (1953)
10. 白石謙作、吉川春寿、熊沢清志
体 育 医 学 頁409~414 (1954)
11. 吉田章信
運動生理衛生学粹 頁141~143 (1948)

Ichikawa, Tamiji

Report on Character Patterns & Normal Constitution Patterns

Résumé

I am in charge of the physical education lecture course for the sophomore students of the college department of Kobe Jogakuin. The atmosphere which I observe in these classes is quite different each semester. This phenomenon is the actual condition which is brought out by the tendency of characters of the students who are registered in the physical education lecture course. Therefore I believe it is proper to consider the general idea of character patterns within the general idea of constitution.

I have studied the inclination of 118 students according to C. G. Jung's theory, and am now presenting my latest report on interesting findings on the relation between the character patterns and Sigaud's normal constitution patterns.